■特長

この時計は、操作性を向上させる為、ロータリースイッチ（回転ベゼル）機能を搭載し、「オート」「マニュアル」の２種類の温度計測ができ、サーモリコール機能によりそれぞれ計測データを呼び出すことができます。又、クロスカントリー等に便利なストローク放音機能や、1/1000秒計測ができるストップウォッチ機能、計測したデータを順位どおりに呼び出すことができるタイムディファレンス機能付でウインタースポーツ向けの多機能のデジタルクオーツです。暗闇でも表示全体を確認することができる内部照明（全面パネルライト）機能もついています。

「時刻・カレンダー機能」
・うるう年でも修正不要の「フルオートカレンダー」（1993〜2042年）機能付です。

「サーモ機能」
・測定温度範囲－20℃〜＋50℃
・測定は「オートサーモ」「マニュアルサーモ」の選択ができます。
・時計携帯による温度の誤差を補正する温度補正機能付。
・メモリー（記憶）個数（オートサーモ：30個／マニュアルサーモ：10個）

「サーモリコール機能」
・オートサーモ：最新・最高・最低温度を表示し、温度推移をグラフで表示します。
・マニュアルサーモ：計測データ（月日・時刻・温度）を最新データから順に表示します。

「ストローク放音機能」
・クロスカントリー等に便利なストローク機能（放音：20〜240回／１分間）
・モードを切り替えても放音します。

「ストップウォッチ・タキメーター機能」
・10時間計（1/1000秒単位）
・「スプリット」「速度」計測と同時に10個のデータを自動的にメモリー（記憶）します。
・スタートの10秒前（報音）からカウントダウンを開始し、５秒前から予告音、計測スタートと同時にスタート音で報音するオートスタート機能付。

「ストップウォッチリコール機能」
・メモリーされたデータを、計測後はもちろん、計測中でもリコール（呼び出す）することができます。

「タイムディファレンス機能」
・メモリーしたデータ(計測時間･回数表示･最速計測時間との差)を順位どおりに表示します。

「アラーム機能」
・３チャンネルのアラーム（デイリーアラーム1ch・シングルアラーム2ch）付。
・チャンネル毎、アラームの鳴り方が違います。
・チャンネル毎、ON／OFF切り替え付。

「内部照明（全面パネルライト）機能」
・専用ボタンの操作により、どのモードでも１回押しで約３秒間点灯します。
・物質に電圧をかけると光を放つ現象（エレクトロルミネッセンス＝EL）を利用した発光方式を採用しています。

※エレクトロルミネッセンスの発光体は、発光時間の経過と共に徐々に輝度が減衰する特性を持っています。（詳しくは、“エレクトロルミネッセンスパネル（内部照明）の交換について”の項をご参照ください。）

＝ご注意事項＝
・低温下で使用し、「回転ベゼル部」及び「ボタン部」が凍結した場合、操作（回転ベゼル・ボタン）ができなくなることがあります。常温に戻れば、回転ベゼル及びボタンは正常に作動します。

■製品仕様

１．水晶振動数　：32,768Hz（Hz＝１秒間の振動数）
２．携帯制度　　：常温（5℃〜35℃）において月差±20秒以内
３．作動温度範囲：－20 ℃〜＋60℃
４．使用温度範囲：－20 ℃〜＋50℃
５．センサーの
　　測定温度範囲：－20 ℃〜＋50℃
６．測定温度精度：±２℃（－20 ℃〜＋50℃）
７．表示内容

「時計・カレンダー表示」
年、月、日、曜日、A／P（12時間制のとき表示）
時、分、秒、温度グラフ（アラーム・報時マーク）

「サーモ表示」
オートサーモ　　　：温度グラフ、温度、現在時刻（時・分・秒）、オート計測マーク
マニュアルサーモ：計測時（月日・時刻・温度）、マニュアル計測マーク
共　　　　通　　　：[℃､測定間隔（2M・12M・1H）、サーモマーク、ADJUST]（アラーム・報時マーク）

「サーモリコール表示」
オートサーモ　　　：温度グラフ、計測温度（最新値・最高値・最低値）、現在時刻（時・分・秒）、オート計測マーク、MAX・MINマーク
マニュアルサーモ：計測時（月日・時刻・温度）、マニュアル計測マーク
共　　　　通　　　：[℃､サーモマーク]､（アラーム・報時マーク）

「ストローク表示」
ストローク回数（20〜240）、現在時刻（時･分･秒）、ON／OFF表示、（アラーム・報時マーク）

「ストップウオッチ表示」
10時間計（時・分・秒・1/1000秒）、スプリット回数
スプリットタイム、スプリットマーク、スキーマーク、Mマーク、オートスタートマーク
現在時刻（時・分・秒）、距離入力時：km・km/h．mile・MPH
計測時：グラフィック表示、（アラーム・報時マーク）

「ストップウオッチリコール表示」
スプリットタイム、スプリット回数、速度（km/h・MPH）／Err 表示（1000km/h・MPHを超えたとき）、スキーマーク、Mマーク、（アラーム・報時マーク）

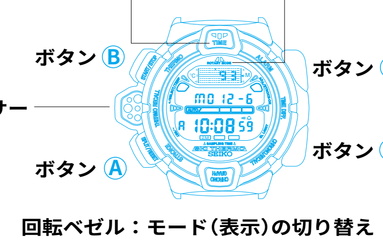
「タイムディファレンス表示」
スプリット回数（メモリーNo）、FASTESTタイムとの差（最速タイムのときはFASTESTと表示）、スプリットタイム、スキーマーク、Mマーク、（アラーム・報時マーク）

「アラーム表示」
アラームセット時刻　[時・分・A／P（12時間制のとき表示）ON／OFF（セット解除）、]
3ch（チャンネル）：d-AL（1ch）．AL-1・2（2ch）
現在時刻（時・分・秒）、A／P（12時間制のとき表示）､（アラーム・報時マーク）

８．表示体　：FE型ネマチック液晶
９・使用電池：リチウム電池　SB-T14　１個（CR-2025）
10．電池寿命切れ予告機能付
11．内部照明：全面パネルライト（EL：エレクトロルミネッセンス）
12．電子回路：C-MOS-IC　２個
※上記の製品仕様は改良のため予告なく、変更することがあります。

■ボタンの名称

例：時刻・カレンダー表示



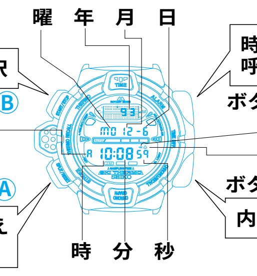
回転ベゼル：モード（表示）の切り替え

●回転ベゼルを回し、表示名を12時方向のモード指示マーク（△）に合わせます。下図の順序で表示が替わります。

- 時刻・カレンダー表示 －TIME－
- アラーム表示 －ALARM－
- タイムディファレンス表示 －TIME DIFF－
- ストップウオッチリコール表示 －CHRONO RECALL－
- ストップウオッチ表示 －CHRONO GRAPH－
- ストローク表示 －STROKE－
- サーモリコール表示 －THERMO RECALL－
- サーモ表示 －THERMO－

■時刻・カレンダーの合わせかた

●ボタンの名称とはたらき



※温度グラフについては、「サーモ表示」を参照してください。

●回転ベゼルを回し、「時刻・カレンダー表示」をモード指示マーク（△）に合わせてください。

①ボタンⒸを２〜３秒間押し続けると、「曜」(「報時／アラームマーク」)が消え「秒」が点滅を開始して、「時刻・カレンダー合わせ」状態になります。
②報時と同時にボタンⒶを押すと「00」に合います。
※秒表示が30〜59秒のとき、ボタンⒶを押すと１分繰り上がって「00」に合います。
※時刻合わせは電話の時報サービス（TEL.117）が便利です。
③ボタンⒷを１回押すごとに次の順序で合わせたいところ（点滅部）を選ぶことができます。
※年月日をセットすると「曜」は自動的に設定されます。

ボタンⒸを押すたびに修正箇所が替わります。

→ 秒 → 分 → 時 → 日 → 月 → 年 → 12H/24H

④合わせたいところを点滅させたあとボタンⒶを１回押すごとに点滅している数字が１つずつ進みます。（「秒」「12H／24H」を除く）
※ボタンⒶを押し続けると、早送りできます。
⑤「時刻・カレンダー合わせ」が終りましたら、ボタンⒸを１回押して「時刻・カレンダー表示」にもどしてください。押し忘れた場合でも２〜３分後には「時刻・カレンダー表示」へ自動的にもどります。
※カレンダーは1993年から2042年までの年・月・日がプログラムされていますので、この間、月の大小や、うるう年でも修正する必要はありません。
※報時機能については、「アラームの使いかた」を参照してください。
※電池交換後は、必ずⒶⒷⒸⒹ４つのボタンを同時に２〜３秒間押し、表示が消え、ボタンを離した後「'93年１月１日FR　A12時00分00秒」の表示になるのを確認してから時刻合わせを行ってください。
※時刻修正の途中で「全点灯表示」になるのは、ⒶボタンとⒷボタンが同時に押された状態です。その場合は、回転ベゼルを回すか、ⒶⒷⒸⒹいずれか１つのボタンを押して、「時刻・カレンダー表示」にもどしてください、つぎにあらためて、上記の①から合わせ直してください。

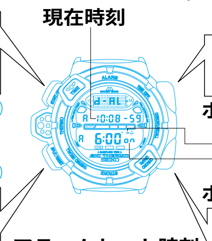
＝全点灯表示＝

■アラームの使いかた

・３チャンネル（ch）のアラームです。（デイリーアラーム：１ch・シングルアラーム：２ch）
・チャンネル毎にON(セット)／OFF(解除）の切り替えができます。
・チャンネル毎のアラームの鳴り方は違います。

チャンネル　①d-AL（デイリーアラーム）　②AL-1（シングルアラーム）　③AL-2（シングルアラーム）

●ボタンの名称とはたらき

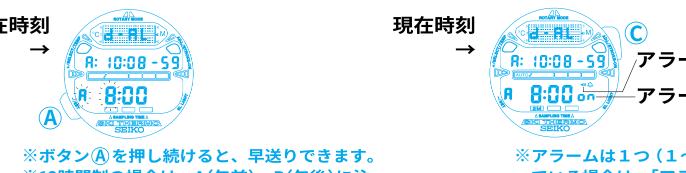


●回転ベゼルを回し、「アラーム表示」をモード指示マーク（△）に合わせてください。

デイリーアラーム：毎日、１日１回設定時刻にアラームが鳴る機能
シングルアラーム：アラームが鳴り終ると、そのセット時刻が自動的に解除される機能

①ボタンⒶで「d-AL」を選択してください。
②ボタンⒸを２〜３秒間押し続けると、OFF(ON)が消え、「時」が点滅表示し「アラーム時刻合わせ状態」になります。
③ボタンⒷを押しますと、押すたびに「時」と「分」が交互に点滅表示します。修正箇所を選択してください。

④合わせたい所を点滅させたら、ボタンⒶを１回押す毎に点滅している数字が、１つずつ進みます。
⑤ボタンⒸを押して「アラーム表示」にもどしてください。「アラームマーク」「アラームセットマーク」が点灯します。押し忘れた場合でも２〜３分後には「アラーム表示」へ自動的にもどります。



※ボタンⒶを押し続けると、早送りできます。
※12時間制の場合は、A(午前)、P(午後)に注意して合わせてください。
アラーム表示の12H/24Hは、「時刻・カレンダー表示」の12H/24Hに連動しています。
※アラームは１つ（1〜3ch）でもセットされている場合は、「アラームマーク」は点灯します。

⑥「AL-1」「AL-2」を使用する場合は、ボタンⒶで選択して、②〜⑤の操作を繰り返してください。

●アラームを鳴らしたいとき、鳴らしたくないとき
※「アラーム表示」でボタンⒷを押す毎に、ON(セット）とOFF(解除）ができます。

例）d-AL（デイリーアラーム）
（アラームが鳴ります）（アラームが鳴りません）

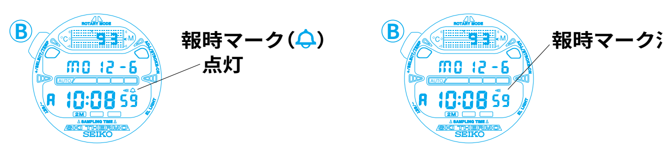
●鳴っているアラームを止めるには
※アラームはセットした時刻になると、20秒間鳴り続けます。鳴っているアラームを止めたい時は、回転ベゼルを回すか、ボタンⒶⒷⒸⒹのいずれか１つのボタンを押してください。

アラームセット状態　アラーム解除状態

※「AL-1」「AL-2」の場合も、使いかたは同じです。

●アラーム音の試し聴き（サウンドデモンストレーション）と報時並びに操作確認音のセットと解除。
※「時刻・カレンダー表示」でボタンⒷを押すごとに、報時・操作確認音のセットと解除ができます。また、ボタンⒶとⒷを同時に押し続けると「アラーム音の試し聴き」ができます。
※報時マークを「点灯」した状態では、毎正時の「報時」「操作確認音」が鳴り、「消灯」した状態では「報時」「操作確認音」は鳴りません。

（報時します）（報時しません）

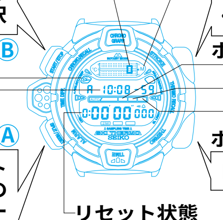


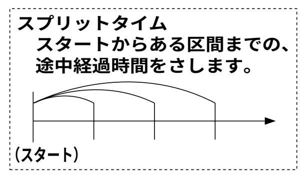
※「アラーム」のセット時間と「報時」が重なった場合、「報時」は鳴らず「アラーム」が優先となっています。
－報音の優先順位－
１）データクリア音
２）アラームまたはサウンドデモ
３）オートスタート予告音
４）ストローク音
５）報時
６）操作確認音

■ストップウオッチ（タキメーター）の使いかた

・1/1000秒単位．10時間計
・最大計測時間　９時間59分59秒999
・最速計測範囲0.00〜999.99km/h(MPH）
・距離入力範囲0.00〜999.99km(mile)
・計測データ(スプリットタイム・速度)を10回までメモリーできます。

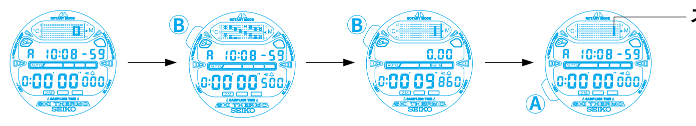
●ボタンの名称とはたらき
例：スタート前の状態





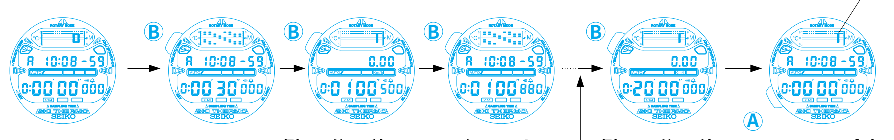
●回転ベゼルを回し、「ストップウオッチ表示」をモード指示マーク（△）に合わせてください。

●普通の使いかた



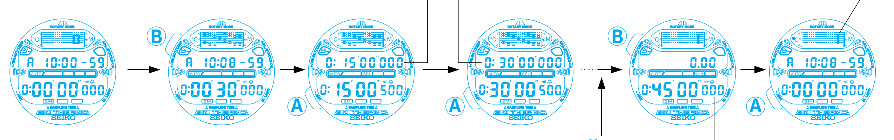
例：9秒86(スプリットタイム)→ストップ時「スプリットタイム」１回としてメモリーされます。

●時間計測を積算で行う場合



例：1分00秒50　再スタートすると前回のメモリーは消去されます。
例：20分00秒00　→　ストップ時、メ（スプリットタイム）モリーされます。
ボタンⒷを押すことで途中のスタート／ストップは何回でもくり返すことができます。

●継続してスプリットを測定する場合



スプリットタイム（15分00秒）
スプリット後、10秒たつと自動的に時刻表示に戻ります。（SPLマーク10秒間点灯）

ボタンⒶを押すことで途中のスプリットは何回でもくり返すことができます。

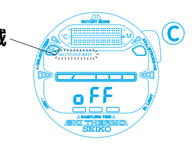
スプリットタイム→ストップ時、メモリーされます。

※途中の「スプリットタイム」はメモリーされません。又、スプリットタイム回数も増えません。

―タキメーターの使いかた―
・距離を入力しておくと、計測後、速度を自動計算し表示します。
・距離を入力する場合はリセット状態で行ってください。

●回転ベゼルを回し、「ストップウオッチ表示」をモード指示マーク（△）に合わせてください。
●測定距離の合わせかた

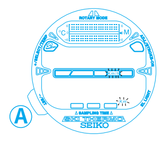
①ボタンⒸを２〜３秒間押し続けると、表示が消え（スキーマークを除き）、OFFマークが点灯し、AUTOSTART（オートスタート）が点滅を開始して、「距離入力状態」になります。



②ボタンⒷを１回押すごとに次の順序で合わせたいところ（点滅部）を選ぶことができます。

点滅
AUTOSTART OFF／ON → 距離単位 km・km/h mile・MPH → 0.01単位 → 0.1単位 → 1単位 → 10単位 → 100単位

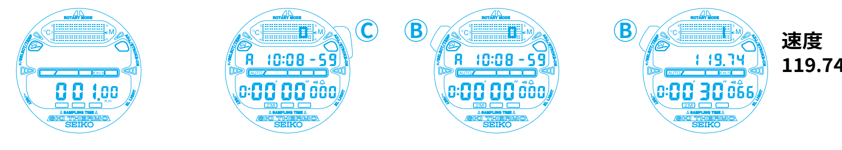
③距離単位を選択して、ボタンⒶを１回押す毎に「km・km/h」と「mile・MPH」が交互に点滅表示します。どちらか選択してください。



④合わせたい所を点滅させたあと、ボタンⒶを１回押すごとに点滅している数字が１つずつ進みます。
※ボタンⒶを押し続けると早送りができます。
⑤距離セットが終わりましたら、ボタンⒸを押して「ストップウオッチ表示」に戻してください。押し忘れた場合でも、２〜３分後には「ストップウオッチ表示」へ自動的に戻ります。

●普通の使いかた

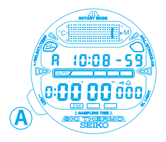
①測定距離を１kmにセットします。
②ボタンⒸを押して「ストップウオッチ表示」にします。
③スタートと同時に、ボタンⒷを押して計測をスタートさせます。
④１km地点でボタンⒷを押して計測をストップさせます。



測定距離
スプリットタイム：30秒066

⑤ボタンⒶを押して「スタート状態」へ戻します。

リセット



※既にメモリーされているスプリットタイム（速度）は、「ストップウオッチリコール」で確認できます。（詳しくは「ストップウオッチリコール表示」の項を参照してください。

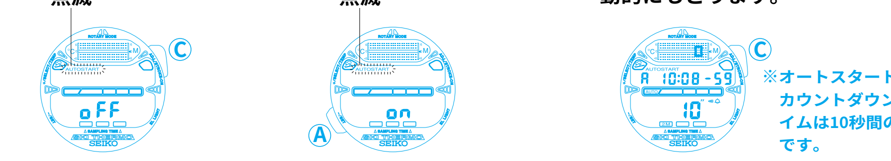
タキメーター：一定距離を走行した時間を測定し、その時間から平均時速を換算表示する機能

$$\frac{走行距離}{走行時間}=時速$$

―オートスタート（AUTOSTART）の使いかた―
・スタートの10秒前(報音)からカウントダウンを開始し、５秒前から予告音(毎秒)、計測スタートと同時にスタート音で報音します。

●回転ベゼルを回し、「ストップウオッチ表示」をモード指示マーク（△）に合わせてください。
●オートスタートのセットの方法

①―タキメーターの使いかた―の「測定距離の合わせかた」①の操作を行います。
②ボタンⒶを押す毎にOFFとONが交互に表示されます。ボタンⒶを押してONを選択します。
③ボタンⒸを押して「ストップウオッチ表示」に戻してください。押し忘れた場合でも、２〜３分後には「ストップウオッチ表示」に自動的にもどります。



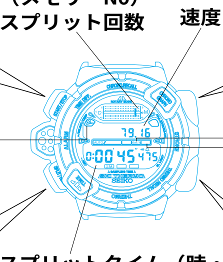
※オートスタートのカウントダウンタイムは10秒間のみです。

オートスタート解除状態　オートスタートセット状態　オートスタート10秒前

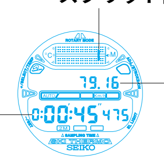
■ストップウオッチリコール（呼び出し）の使いかた

・計測途中、ストップ（リセット）状態でも、メモリーの呼び出しはできます。
・最大10個のデータ（スプリットタイム）をメモリー（記憶）しています。

●ボタンの名称とはたらき

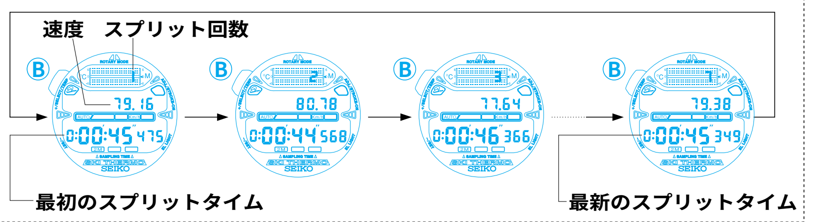


１．計測を終了（ストップ・ストップ→リセット）後に、呼び出す場合。
①回転ベゼルを回し､「ストップウオッチリコール表示」をモード指示マーク（△）に合わせてください。
例）測定距離（１km）セット済

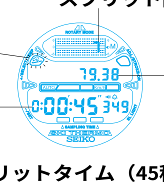


※スプリット回数は最初に計測したデータから表示します。
※距離が「０」の場合は、速度も「０」表示します。
※時速計測範囲［999.99km/h(MPH)］を超えた場合、速度表示の所がErr（エラー）表示します。

②ボタンⒷを押す毎に、記録されたデータが次の順序で表示されます。
例）スプリット回数を７回取った場合

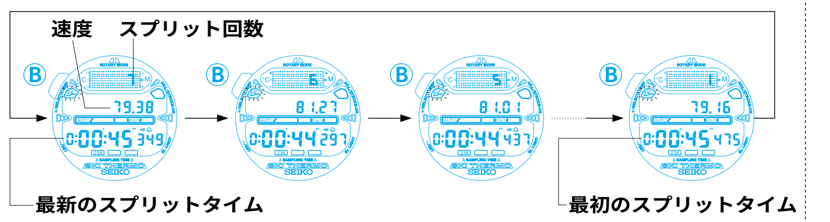


２．計測中に呼び出す場合。
①回転ベゼルを回し､「ストップウオッチリコール表示」をモード指示マーク（△）に合わせてください。
例）スプリット回数８回目計測中
計測距離（１km）セット済

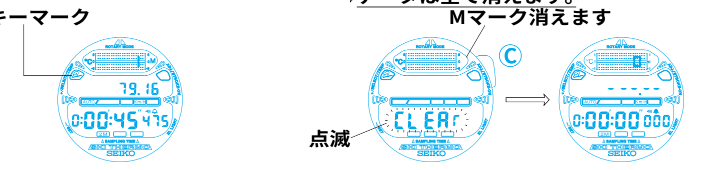


※スプリット回数は最新のデータから表示します。

②ボタンⒷを押す毎に、記録されたデータが次の順序で表示されます。
例）スプリット回数を８回計測中の場合（スキーマークは点滅しています）

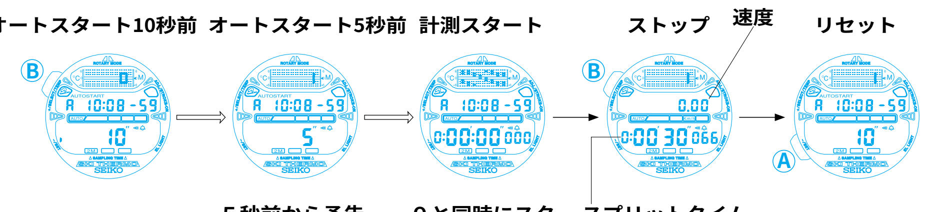


●データの消しかた（データ：ストップウオッチ表示で計測されたもの）
過去のデータが不要になった場合は、次の方法で消すことができます。
※記憶されているデータはすべて消されますので、ご注意ください。
①回転ベゼルを回し、「ストップウオッチリコール表示」をモード指示マーク（△）に合わせてください。
②ボタンⒸを２〜３秒間押し続けるとスキーマーク以外表示が消え、「CLEAR」マークが点滅表示し、報音（ピ――）と同時に消えます。
⇨データは全て消えます。



データがない状態の表示

●普通の使いかた



５秒前から予告音(毎秒)が鳴ります。
０と同時にスタート音(ピ――)が鳴ります。
カウントダウン

※スプリット回数は99回まで表示します。以降は100(表示：00)、101(表示：01）と順次表示します。
※スプリット回数は10回までメモリーされます。11回目以降は「Mマーク」が消え、メモリーされませんのでご注意ください。
※計測したデータをメモリー(記憶)し、計測中でも、計測後でも自由に呼び出せます。
⇨「ストップウオッチリコール表示」を参照してください。
※メモリーの消去方法は「ストップウオッチリコール表示」を参照してください。
※操作確認音については、「アラームの使いかた」を参照してください。
※速度が999.99km/h(MPH)を超えると、表示速度の所がエラー(Err)表示します。
※計測時間が10時間を超えた場合、10時間以上の桁を無視し、計測を続け、100時間でストップしてリセット状態になります。（メモリーはしません）　9：59'59"999→0：00'00"000…→9：59'59"999　→
繰り返します

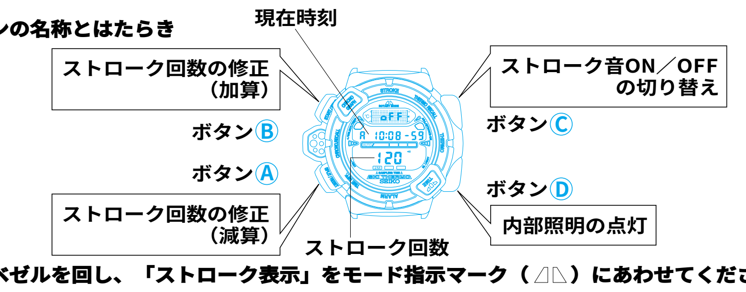
●計測後「距離」をセットする場合
①リセット状態にしてください。
②―タキメーターの使いかた―の「測定距離の合わせかた」項の①〜⑤の操作をおこなって、「距離」をセットしてください。

●計測中に他のモードに切り替えても正常に作動（「スキーマーク」が点滅）していますが、計測していない場合は、電池寿命に影響しますので、作動を停止させてください。

■ストローク放音の使いかた

・ストローク音回数の入力範囲20～240回／１分間
・ストローク音の最大放音時間約16時間（途中、操作をしない状態）⇒報音停止（OFF）
・ストローク音はON（セット）／OFF（解除）の切り替えができます。
・ストローク音（ON状態）はモードを切り換えても放音します。

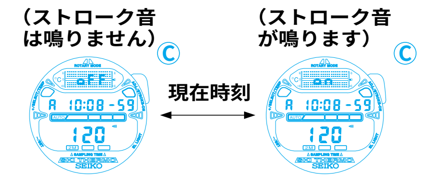
●ボタンの名称とはたらき



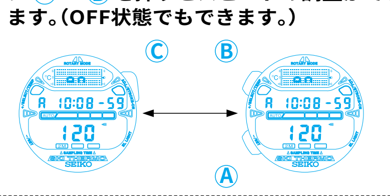
●回転ベゼルを回し、「ストローク表示」をモード指示マーク（⊿◺）にあわせてください。

①ボタンⒸを押す毎にOFFとONが交互に表示します。どちらかを選択します。

例）ストローク回数（120回／１分間）



②ボタンⒸを押して、ON（セット）を選択します。ストローク音がセット回数に合ったスピードで放音します。この状態でボタンⒶ or Ⓑを押すとスピードの調整ができます。（OFF状態でもできます。）



Ⓐを押すと120→119→118…→20→240→239

Ⓑを押すと120→121→122…→240→20→21

③使い終わったら、ボタンⒸを押してストローク音を止めます。

ON⇒OFFに切り替わります。Ⓒ

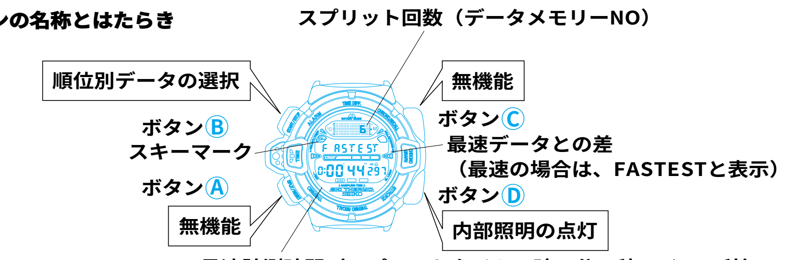
※ストローク音はモードを切り替えても放音しますが、下記の場合、その間はOFF（解除）状態になります。
1）修正状態（各モード）
2）アラームの報音状態
3）内部照明の点灯状態
4）ストップウオッチの「オートスタート・カウントダウン」状態

●ストローク音を使用しない場合は、電池寿命に影響しますので放音を停止させてください。

■タイムディファレンスの使いかた

・最速計測データから速い順に表示します。
・計測途中、ストップ（リセット）状態でも、メモリーの呼び出しはできます。
・最大10個のデータ（スプリットタイム）をメモリー（記憶）しています。

●ボタンの名称とはたらき

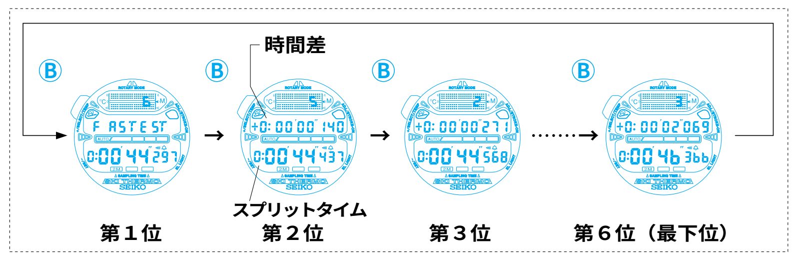


●計測途中、終了（ストップ・ストップ→リセット）後の、どちらでも呼び出せます。

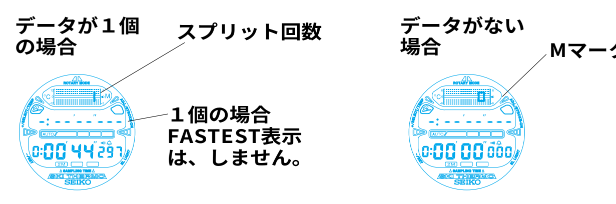
①回転ベゼルを回し、「タイムディファレンス表示」をモード指示マーク（⊿◺）に合わせてください。
※計測途中で呼び出す場合は、「スキーマーク」が点滅します。

②ボタンⒷを押す毎に記憶されたデータが次の順序で表示されます。
※スプリット回数は「最速データから速い順」に表示します。
※２位以降は「スプリットタイム」の他に、「最速データとの時間差」も表示します。

例）スプリットタイム回数を６回取った場合



③データのメモリーが「１個」及び「ない」場合の表示



※ボタンⒷを押しても表示は変わりません。

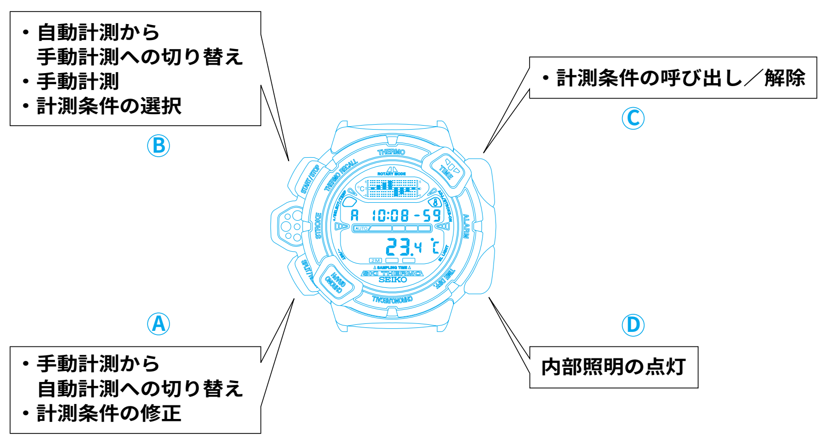
■サーモの使いかた

回転ベゼルをまわし、「サーモ表示」をモード指示マーク（⊿◺）に合わせると、温度センサーにより、一定時間間隔で自動的に計測した温度を表示させたり（自動計測）、手動による計測・表示をさせること（手動計測）ができます。また計測時間間隔・温度補正値の変更（計測条件修正）ができます。

サーモでの機能は以下のようになります。

・計測温度範囲：－20～50°C
（－20°C未満は「－20. L°C」、
50°C超過は「　50. H°C」と表示）
・メモリー：自動計測データ30個まで可能です。
（計測時間間隔は、２分、12分、１時間のいずれかに設定可能です。）
手動計測データ10個まで可能です。

●ボタン名称とはたらき



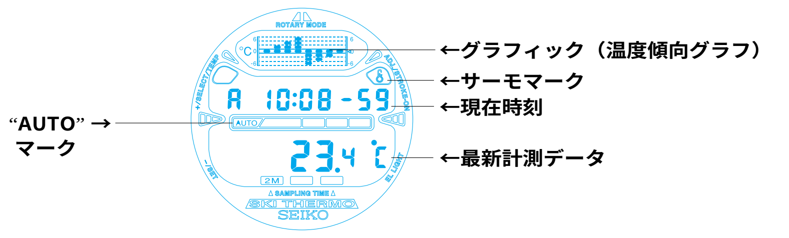
―温度計測について―

腕につけている条件によっては、多少の誤差が生じる場合がありますので、腕につけた状態での表示値はあくまでも目安として使い、より厳密に温度を計測したい場合は、腕から外して計測してください。

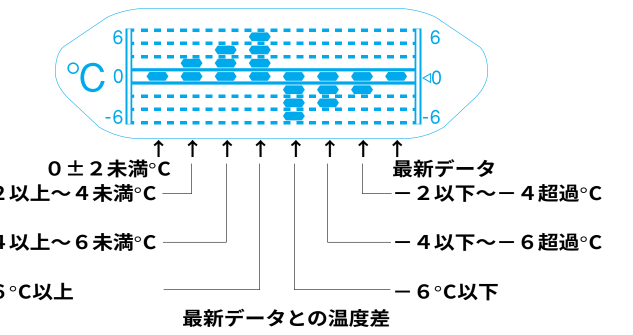
●自動計測の使い方
（AUTO：オートサーモ）

①本機はすべてのモードで、一定時間間隔で自動的に計測を行っています。
回転ベゼルをまわし「サーモ表示」をモード指示マーク（⊿◺）に合わせると、自動計測状態になります。又手動計測状態でボタンⒶを押した時も自動計測状態になります。
自動計測状態では、“AUTO” マーク、最新の温度計測データ、温度傾向グラフ（最新温度計測データに対する差）が表示されます。計測時間間隔は、工場出荷状態で２分となっています。
（「計測条件修正」で２分、12分、１時間のいずれかに設定できます。）

②温度表示の見方
・温度表示には最新の計測データを表示します。



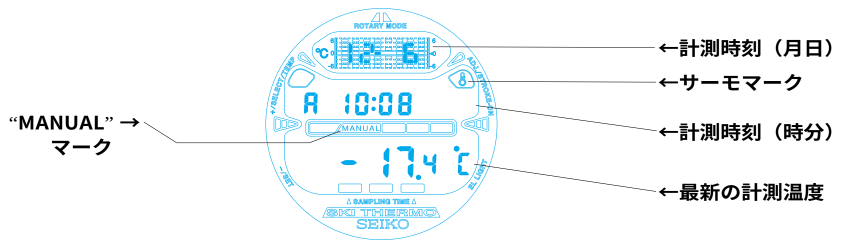
・グラフィックには最新データに対する温度差を棒グラフで表示します。
（温度傾向グラフ）
グラフィック表示の意味は以下の図のようになります。
（「時計・カレンダー」モードでのグラフはここを参照）



③自動計測では、温度を最大30個まで自動計測データとしてメモリーすることができます。
メモリー数が30個を超えると、一番古いデータから順にデータが１つずつ消去されます。

●手動計測の使い方
（MANUAL：マニュアルサーモ）

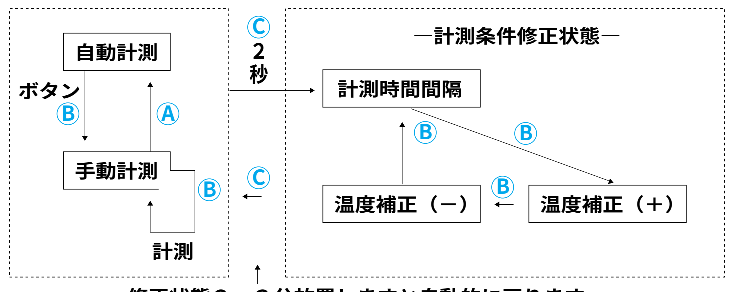
①自動計測状態でボタンⒷを押すと、手動計測状態になり、手動で温度を計測し、計測時刻（月日時分）とその温度をメモリーします。
表示には、“MANUAL” マーク、最新の計測温度とその計測時刻（月日時分）を表示します。又再びボタンⒷを押すと、手動で新たに温度を計測し、計測時刻とその温度をメモリします。



②手動計測では、温度を最大10個まで手動計測データとしてメモリーすることができます。
メモリー数が10個を超えると、一番古いデータから順にデータが１つずつ消去されます。
１分以内に２回以上手動計測（温度が同じ）を行った場合、計測時刻表示が「分」表示までの為、全く同じデータがメモリーされる場合があります。
③手動計測状態で、ボタンⒶを押したとき、自動計測状態に替わります。
④手動計測状態においても自動計測は続けられます。

●計測条件修正の使い方

「自動計測」、「手動計測」状態でⒸボタンを２秒以上押し続けると、「計測条件修正」状態に切り替わります。
「計測条件修正」では、「自動計測」における計測時間間隔の切り替え（２分／12分／１時間）・計測温度の補正を行うことができます。
「計測条件修正」状態でボタンⒸを押すか、または２～３分放置すると、自動的に「計測条件修正」に切り替える前の状態（「自動計測」または「手動計測」）に戻ります。



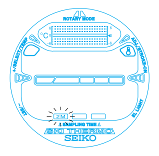
修正状態２～３分放置しますと自動的に戻ります。

①計測時間間隔の切り替え（「自動計測」における）
「自動計測」、「手動計測」状態でボタンⒸを2秒以上押し続けたとき、または、「温度補正（－）」状態でボタンⒷを押したとき、計測時間間隔の切り替え状態になります。
ボタンⒶを押す毎に２分、12分、１時間と切り替えることができます。
計測する時間間隔を変更した場合は、それまでの自動計測データはすべて消去されます。
自動計測は、時計に同期して行い、時間間隔の設定により、以下のタイミングで計測します。

２分：０、２、４　………58
（偶数分置きに計測）

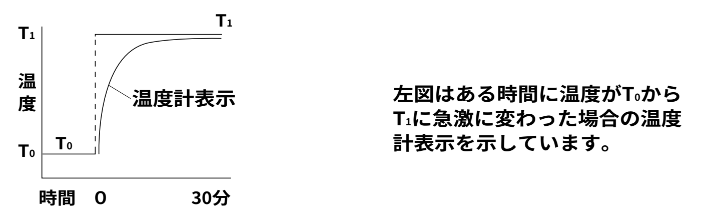
12分：０、12、24　………48
（12分置きに計測）

１時間：０
（毎正時置きに計測）



②温度補正（携帯状態で標準温度に対しての補正）
計測時間間隔の切り替えで、ボタンⒷを押しますと温度補正（＋）、更にボタンⒷを押しますと温度補正（－）に切り替わります。
この状態では、センサーのばらつき・時計携帯による温度の誤差を修正することができます。
温度補正（＋）では、“＋ADJUST” と表示し、ボタンⒶを押すことにより、温度に補正値を加算していきます（ボタンⒶ押し続けで連続加算します）。
温度補正（－）では、“－ADJUST” と表示し、ボタンⒶを押すことにより、温度から補正値を減算していきます（ボタンⒶ押し続けで連続減算します）。
・温度補正範囲は、－20.0～ 50.0°Cで、＋／－の補正が0.1°C刻みでできます。
・温度補正をリセットする（工場出荷時の値に戻す）場合は、温度補正（＋／－）修正状態でボタンⒶとⒷを同時押しします。
工場出荷時：時計を「放置状態」で±２°Cに入るように調整されています。
・温度補正時に－20°C未満または50°Cを越える場合は、補正値が変化せず、補正値リセットのみ有効（ボタンⒶとⒷを同時押し）となります。

◎急激な温度変化があったとき
温度センサーは時計に内蔵されていますので、計測値は時計自体の温度を表示しています。急激な温度変化があったとき、時計自体がその温度と同じになるにはある程度の時間（約30分程度）がかかります。
※携帯時の条件（体温、服装など）によって、多少の差異が生じます。



左図はある時間に温度がT_0からT_1に急激に変わった場合の温度計表示を示しています。

◎計測範囲を越えたとき
本機の計測範囲（－20°C～50°C）を越えた場合は下記のように表示されます。

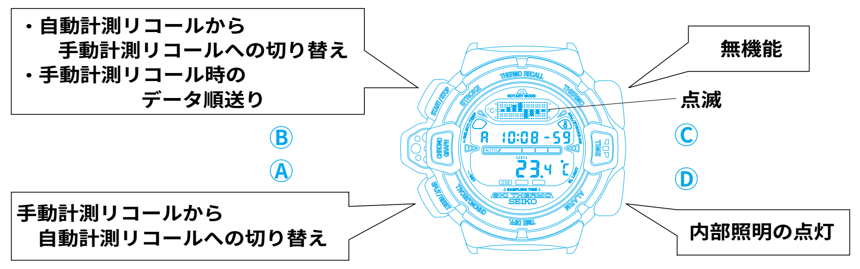
計測結果	温度表示
アンダーフロー －20°C未満	－20. L°C
オーバーフロー 50°C超過	50. H°C

◎測定温度精度について
時計を腕にせず放置した場合（初期状態：温度補正なし）の精度は、－20～50°Cで±2°C以内となります。

■サーモリコールの使いかた

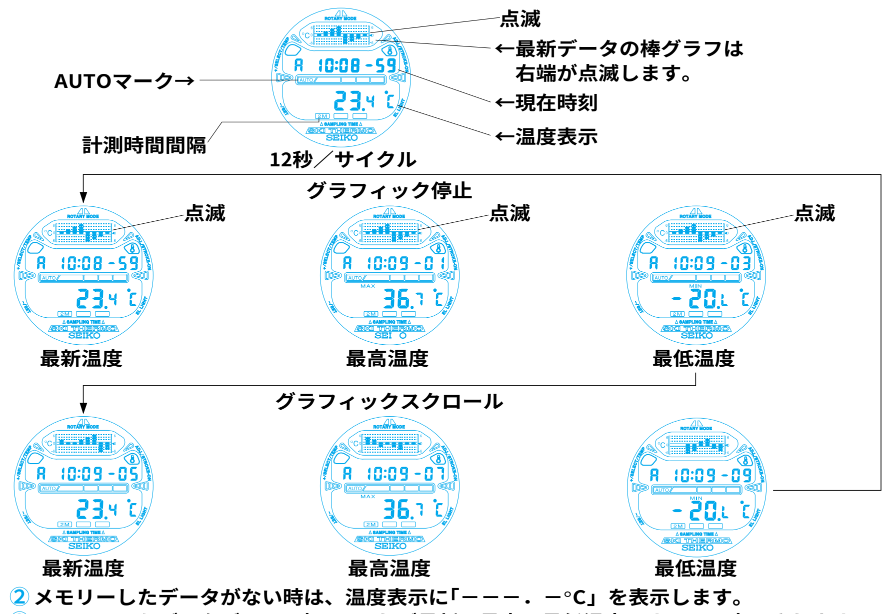
回転ベゼルをまわし、「サーモーリコール表示」をモード指示マーク（⊿◺）に合わせると、サーモモードで計測・メモリーした温度を表示します。
メモリーした温度データは、サーモモードの自動計測、手動計測に対応して呼び出され表示されます。
自動計測データは「自動計測リコール」で呼び出され、最新データ／最大データ／最小データの順序で表示され、グラフィックには最新データに対する温度差を指示する棒グラフがスクロール表示（流れ表示）されます。
手動計測データは「手動計測リコール」で呼び出され、ボタンⒷを押す毎に最新データから新しい順に表示されます。

●ボタン名称とはたらき



●自動計測リコールの使い方

①回転ベゼルをまわし「サーモリコール表示」をモード指示マーク（⊿◺）に合わせると、自動計測リコール状態になります。
又手動計測リコール状態でボタンⒶを押したときも自動計測リコール状態になります。
自動計測リコール状態では、“ AUTO ” マークが点灯し、温度表示には、計測・メモリーしたデータ最新／最高（MAX）／最低（MIN）温度を順に繰り返し表示します。
グラフィックには最新データに対する温度差を棒グラフがスクロール表示します（データが7個以上のとき）⇒6個以下の場合はスクロール表示しません。

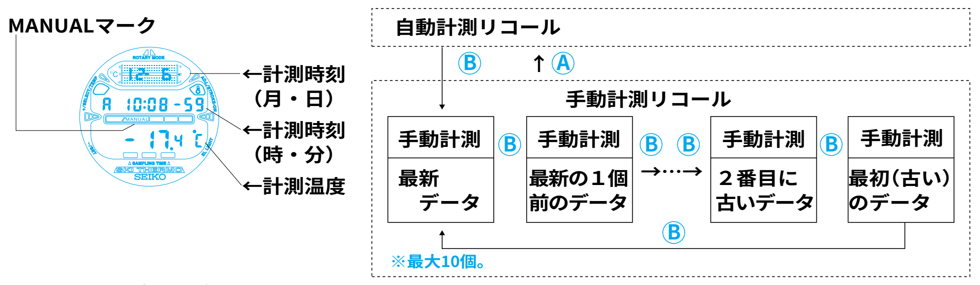


②メモリーしたデータがない時は、温度表示に「－－－．－°C」を表示します。
③メモリーしたデータが1つの時は、それが最新・最高・最低温度のすべてに表示されます。

※自動計測リコール状態は、必要がない場合は電池寿命に影響しますので他のモードへ切り替えてください。
（例：時　刻・カレンダーモード）

●手動計測リコールの使い方

①自動計測リコール状態でボタンⒷを押すと、手動計測リコール状態に切り替わります。
手動計測したデータは、ボタンⒷを押す毎に、最新のデータから順に表示します。



②データがない場合、
計測時刻表示に「－－：－－」、温度表示に「－－－．－°C」を表示します。